

刊行に寄せて

1921年に渋沢敬三によって創設された「アチックミュージアムソサエティ」は、戦後の財団法人日本常民文化研究所の時代を経て、1982年に神奈川大学に移管されました。神奈川大学日本常民文化研究所では、創設時以来の理念を受けつぎ、「常民」の等身大の生活文化を明らかにするため、民具や古文書の収集・整理、漁村・漁業史研究所をはじめとする多様な領域を対象に、幅広い活動を展開してきました。とくに、その調査・研究にあたっては、創設者渋沢敬三がとなえた“ハーモニアスデヴェロップメント”の精神に基づき、異なる分野の研究者が協働で行う共同研究の方法を採用して推進してきました。また、地域で奮闘するさまざまな研究者や若手研究者の調査・研究を支援するための制度を導入して、研究の活性化と進展をはかっています。とくに、2010年度から、在野の研究者などの研究の一助となるよう、「常民文化奨励研究」としてグループによる課題を募集することといたしました。従来、この奨励研究は研究所本体の事業として推進されてきましたが、2015年度より国際常民文化研究機構の事業へと変更されました。今回刊行する神奈川大学日本常民文化研究所調査報告第25集『河原田盛美における本草学的知識から近代勤業的実践の転換に関する研究』は、変更後の最初の成果となります。

本共同研究は、沖縄経験のある水産官僚の河原田盛美に焦点をあて、その活動内容の分析を通して近代日本の知識の変容と活用のあり方を追究しようというものです。そこでは、西欧型の専門知識を有した官僚が登場する以前に、河原田の実践的な活動や集積した知識がどのように持続され、あるいは、断絶してしまったのかという動向を把握することにより、近代日本の知の変容の中身が解明されると捉えられます。河原田家に伝わる膨大な文書の資料整理作業も合わせて行う本共同研究は、この分野の研究を進展させる上で大きく寄与するものと思われます。2年間という限られた時間のなかで執筆にあたられた研究メンバーの皆様に、改めてお礼を申し上げます。

2017年2月

神奈川大学日本常民文化研究所長
国際常民文化研究機構運営委員長

田上 繁